

第4回 生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会 議事録

1. 日時：平成27年3月3日 15:00～17:00

2. 場所：一般社団法人 日本自動認識システム協会 (JAISA) B会議室

3. 次第：

- | | | |
|---------------------|-------|---------|
| 1. 開会の挨拶 | 事務局 | 15:00 ～ |
| 2. 配布資料の確認 | 事務局 | 15:01 ～ |
| 3. 議事 | 半谷委員長 | |
| 1) 委員長挨拶 | 委員長 | 15:02～ |
| 2) 前回議事録確認 | 事務局 | 15:05 ～ |
| 3) 検討および設計作業報告 | 中村委員 | 15:10 ～ |
| 4) 報告書目次案とまとめ日程について | 事務局 | 16:40 ～ |
| 4. 事務連絡 | 事務局 | 16:55 ～ |
| 1) 今後について | | |
| 2) 写真撮影など | | |

4. 出席者：(敬称略)

[委員]

○半谷精一郎 東京理科大学

×寶木和夫 (独法)産業技術総合研究所 ○埴俊浩 日本電気(株)

○吉田稔 西宮市情報センター ○平岡良彦 セコム(株)

○村上秀一 (株)日立製作所 ○鷲宏行 (株)NTTデータ

○中村敏男 (株)OKI ソフトウェア ○平野誠治 凸版印刷(株)

○清水光俊 川口市 ○齋藤雄一郎 富士通 (株)

[オブザーバ]

○高田直幸 セコム(株) ×山田徳幸 日本電気(株)

×岩永敏明 経済産業省 ×中山和泉 経済産業省

[事務局]

○酒井康夫 (一社)日本自動認識システム協会

○山口理津子 (一社)日本自動認識システム協会

5. 配布資料

資料1 第4回生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会アジェンダ

資料2 第3回 生体認証を用いた被災者支援システムの研究開発検討委員会 議事録

資料3 検討および設計作業報告

資料4 被災者支援システムへの生体認証組込部プログラム仕様書

資料5 報告書目次案とまとめ日程について

6. 議事内容

1) 開会の挨拶

(一社) 日本自動認識システム協会 (JAISA) 事務局より、開会の挨拶があった。

2) 前回議事録確認

事務局より資料2を用いて、前回議事録の確認があり、承認された。

3) 検討および設計作業報告

中村委員より、資料3及び資料4を用いて、「調査および設計作業報告」があった。(詳しくは資料3・資料4を参照のこと)

質疑応答の結果、以下の項目を修正・検討することとなった。

- 1) 要援護者とそれ以外の人が入り混じった形で避難所に避難してくる中で、要援護者を健常者と切り分けて、要援護者の確認をどのように進めるかについてイメージが解るようにストーリーを検討し、それに則って整理すること。
- 2) 6 ページの図の整理をする。
 - ① 「住民基本台帳および要援護者台帳の事前取込み」は、データは災対本部にあるので、それを前提として動きを検討し、図を再整理する。
 - ② 避難所内に誘導したあと、生体認証を応用するためには、災対本部にある避難者台帳および被災者台帳データを「避難者台帳および被災者台帳作成」に渡すという作業が必要となるので、それを前提として動きを検討し、図を再整理する。
- 3) 生体認証を扱う避難所の前提条件を明確にする。
- 4) 14 ページ : UA 中の「BioAPI Framework」の下に指紋も追加する。

また、検討の結果、下記は機能として残すこととなった。

- 1) 10 ページの機微情報のアクセス許可を確認する機能は使わないかもしれないがあったほうがよいので、残しておく。

4) 報告書目次案とまとめ日程について

事務局より、資料5を用いて「報告書目次案」、「まとめ日程」について報告があった。(詳しくは資料5を参照のこと)

質疑応答により、以下を検討することとなった。

- 1) 今回の研究開発で扱う範囲を明確にする。
- 2) プログラム仕様と運用設計を整理する。
- 3) 5 を付録として「平成26年度研究開発の詳細」とする。
- 4) エラーは最新の6.0を採用する。
- 5) 15 ページの下 : UA を一般の人でもわかるように説明を修正する。
- 6) 16 ページ2のプライバシーを考量したセキュリティ設計 : NISTSP800-63 部分について PIV カードについても考慮する。

以上